

第4回 北海道PTパラスポーツ Webミーティング

健康スポーツ局 障がい者スポーツ支援部
安部 朋美



6月24日に第4回北海道PTパラスポーツWebミーティングが行われました。

今年度の障がい者スポーツ支援部は『MEET&CONNECT』を目標に掲げており、今回は2021東京パラリンピック(パラローイング)と2022北京パラリンピック(クロスカントリースキー)に視覚障がい選手として参加した理学療法士の有安諒平氏を講師としてお招きし【理学療法が拓く多様性の未来~これからのPTに求められること、夏冬2つのパラリンピックを経験して~】をテーマに、聴衆参加型の非常に有意義なWebミーティングとなりました。

参加者の関心が高かった視野狭窄について、有安氏が実際に見えている視野狭窄状態を図解で解りやすく解説した後、実際に参加者がマリオットの盲点実験を行い、周囲の映像や記憶により情報(視野)が補足される事を体験しました。

また、スポーツにおける多様性がパラリンピックへの道を開いた話として「スポーツは、楽しみであり、身体を動かし健康効果を高めたり、何かを達成する体験ができる価値のあるものだが、ほとんどが健常者に合わせて作られているルールの為、ネガティブな足枷であったが、障がい者にも適応するルール(多様性)を作ったことによりスポーツを楽しめる当事者になれた。QOLが上がり、足枷からパラリンピックへのチケットに変わった」という話がとても印象深く残りました。後半では、有安氏のプライベート時の過ごし方からVO2max値まで幅広い質疑応答が行われ、大盛況の後に終了しました。

今後も障がい者スポーツ支援部は、理学療法士が障がい者スポーツの情報を持ち、障がいがある方をスポーツに繋げる橋渡し役をベースとし、スポーツを社会参加の一つのツールとして選択肢に活用することを促していきたいと考えております。スポーツ現場にて地域で専門的に運動指導ができる理学療法士を増やし、地域指導者と理学療法士が繋がり、障がい者に合わせた運動指導を展開できる事を目指します。

全道障がい者スポーツ大会(陸上競技)や各種障がい者スポーツ大会で理学療法ブースを設置します。今まで関わったことのない方でも事前講義や、当日はコアメンバーの指導を受けながら活動が行えますのでお気軽にお申し込み下さい。